

患者さまへ

「結腸憩室炎に対する外科治療成績の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得ることができるときには、研究の目的を含む研究の実施についての情報を提示して適切な同意を得ることが必要とされています。同意いただける場合は、その旨を担当者にお伝えください。また、適切な同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2019年1月より2028年12月までに湘南鎌倉総合病院外科にて結腸憩室炎で手術を受けた/受ける患者さま
2 研究目的・方法	結腸憩室炎は良性疾患で、多くは消化管の安静、抗菌薬治療で軽快します。しかし、薬剤で憩室が消失することはなく、憩室炎を反復する場合や穿孔をきたし膿瘍形成や膀胱とつながり結腸膀胱瘻となってしまうケースも見られ、手術法を含めた診療方針は大腸癌よりも難しいことも非常に多い疾患です。根治的な治療方法は外科的切除しかないのですが、一時的もしくは永久的な人工肛門状態となることもあり、顕著な生活の質の低下や手術の後遺症などが大きな問題です。近年では急性期を保存的治療で対応し、腹腔鏡手術で低侵襲に治療する報告も増えてきました。当院は救急応需数が非常に多く、結腸憩室炎の患者さまもとても多い医療施設です。この研究は結腸憩室炎に対する外科手術を施行された患者さまの治療成績を検討します。 研究の期間:施設院長承認後(2024年7月予定)～2029年3月
3 情報の利用拒否	同意いただいた後であっても、いつでも撤回できます。情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	研究対象者背景(年齢、性別、体重、検査所見)、病歴情報(原疾患、術前治療の有無、術式、周術期成績、合併症、後遺症)、人工肛門造設の有無、人工肛門造設の閉鎖の有無等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 藤井正一 湘南鎌倉総合病院 外科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717